

キャブピリン配合錠

【この薬は？】

販売名	キャブピリン配合錠 CABPIRIN Combination Tablets
一般名	アスピリン Aspirin ボノプラザンフマル酸塩 Vonoprazan Fumarate
含有量 (1錠中)	アスピリンとして100mgおよび ボノプラザンフマル酸塩13.36mg (ボノプラザンとして10mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗血小板剤作用薬とプロトンポンプインヒビターの2種類を含んだ薬です。
- ・アスピリンは、血小板の機能を抑えることにより、血液を固まりにくくし、血栓症の再発を防ぎます。
- ・アスピリンで胃・十二指腸潰瘍がおこることがありますが、ボノプラザンは、胃酸の分泌を抑え、それらを防ぎます。
- ・次の目的で処方されます。

下記疾患又は術後における血栓・塞栓形成の抑制（胃潰瘍または十二指腸潰瘍の既往がある患者に限る）

- ・狭心症（慢性安定狭心症、不安定狭心症）、心筋梗塞、虚血性脳血管障害（一過性脳虚血発作（T I A）、脳梗塞）
- ・冠動脈バイパス術（C A B G）あるいは経皮経管冠動脈形成術（P T C A）施行後
- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にキャブピリン配合錠に含まれる成分またはサリチル酸系製剤（アスピリン、アスピリン・アスコルビン酸、アスピリン・ダイアルミネート、アスピリン・ランソプラゾール、サリチル酸ナトリウム、サザピリン、サリチルアミド、エテンザミドなど）で過敏症のあった人
- ・アタザナビル硫酸塩、リルピピリン塩酸塩を使用している人
- ・消化性潰瘍のある人
- ・出血傾向（容易に出血したり、いったん出血すると止まりにくい）のある人
- ・アスピリン喘息（ぜんそく）（非ステロイド性消炎鎮痛剤などにより誘発される喘息発作）の人、または過去にアスピリン喘息になったことがある人
- ・出産予定日が12週以内の妊婦

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・血液の異常のある人、または過去に血液の異常があった人
- ・家族に、容易に出血したり、いったん出血すると止まりにくい人がいる人
- ・気管支喘息の人（アスピリン喘息の人は除く）
- ・アルコールを常飲している人
- ・手術、心臓カテーテル検査または抜歯前1週間以内の人
- ・腎臓に障害がある人、または過去に腎臓に障害があった人
- ・肝臓に障害がある人、または過去に肝臓に障害があった人
- ・妊婦（ただし、出産予定日が12週以内の妊婦は、この薬を使用することはできません）または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬 [アタザナビル硫酸塩（レイアタッツ）、リルピピリン塩酸塩（エジュラント）] や、併用を注意すべき薬や飲食物があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

一回量	1錠
飲む回数	1日1回

●どのように飲むか？

- ・コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。
- ・割ったり、砕いたり、すりつぶしたりせずに、そのままかまずに、水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

- ・決して2回分を一度に飲まないでください。
- ・気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・誤って多く使用した場合、耳鳴、めまい、頭痛、嘔吐（おうと）、難聴、軽度の頻呼吸などの初期症状がおこることがあり、さらに、重度の過呼吸、呼吸性アルカローシス（筋肉のけいれん、手のふるえ、しびれ、脱力）、代謝性アシドーシス（頭痛、眠くなる、意識の低下、深く大きい呼吸）、けいれん、昏睡、呼吸不全などの症状に移行するおそれがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬を長期間使用する場合は、定期的に内視鏡検査が行われます。
- ・この薬を長期間使用することにより、低マグネシウム血症があらわれることがあるので、この薬を長期使用する場合は、血中マグネシウム濃度を測定するために、定期的に血液検査が行われることがあります。
- ・脳梗塞の治療で、この薬を飲む場合は、血圧を良好に保つように心がけてください。
- ・出産予定日が12週以内の妊婦はこの薬を使用することはできません。
- ・妊婦（ただし、出産予定日が12週以内の妊婦は除く）または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳を避けてください。
- ・アルコール飲料は、この薬に影響しますので、控えてください。
- ・他の医療機関を受診する場合、特に手術や歯の治療を受けるときには、この薬を飲んでいることを医師または歯科医に必ず伝えてください。
- ・薬局で他の薬を購入する場合は、この薬を飲んでいることを必ず薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
汎血球減少 はんけつきゅうげんしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきからの出血、息切れ、動悸（どうき）、あおあざができる、出血しやすい、発熱、

重大な副作用	主な自覚症状
	寒気、喉の痛み
無顆粒球症 むかりゆうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけっきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	めまい、体がだるい、息切れ、動悸、あおあざができる、出血が止まりにくい、発熱、寒気、喉の痛み
中毒性表皮壊死融解症 ちゅうどくせいひょうひえしゅうかいしょう	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
剥脱性皮膚炎 はくだつせいひふえん	ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、発熱をしばしば伴う
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
出血	出血 [脳出血等の頭蓋内出血] 突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる [肺出血] 咳（せき）と一緒に血が出る [消化管出血] 吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、便に血が混じる、黒い便が出る [鼻出血] 鼻血 [眼底出血] 視界の中に見づらい部分がある、視力の低下、目のかすみ、小さいゴミのようなものがみえる症状の悪化
喘息発作 ぜんそくほっさ	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする、息苦しい

重大な副作用	主な自覚症状
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
消化性潰瘍 しょうかせいかいよう	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
小腸・大腸潰瘍 しょうちょう・だいちょうかいよう	腹痛、下痢、便に血が混じる（暗赤色）
アレルギー反応に伴う急性冠症候群 アレルギーはんのうにともなうきゅうせいかんしょうこうぐん	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、胸を強く押さえつけられた感じ、あごの痛み、左腕の痛み、寒気、ふらつき、汗をかく、発熱、意識の低下、口唇周囲のはれ、かゆみ、じんま疹、発疹、喉のかゆみ、動悸
低マグネシウム血症 ていマグネシウムけっしょう	吐き気、嘔吐、食欲不振、体がだるい、顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、しびれ、めまい、動悸、気を失う

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	出血しやすい、発熱、寒気、突然の高熱、出血が止まりにくい、体がだるい、発熱をしばしば伴う、冷汗が出る、ふらつき、出血、疲れやすい、力が入らない、食欲不振、体がかゆくなる、汗をかく、顔や手足の筋肉がぴくつく、しびれ
頭部	めまい、意識の消失、突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい、意識の低下、一時的にボーっとする、気を失う
顔面	鼻血、顔面蒼白、あごの痛み
眼	目の充血やただれ、視界の中に見づらい部分がある、視力の低下、目のかすみ、小さいゴミのようなものがみえる症状の悪化、白目が黄色くなる
耳	耳鳴り
口や喉	歯ぐきからの出血、喉の痛み、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、唇や口内のただれ、喉のかゆみ、突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、咳と一緒に血が出る、吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、口唇周囲のはれ
胸部	息切れ、動悸、息苦しい、息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする、しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ
腹部	腹痛、胃がむかむかする
手・足	関節の痛み、手足が冷たくなる、突然片側の手足が動かしくくなる、左腕の痛み、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える

部位	自覚症状
皮膚	あおあざができる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が黄色くなる、かゆみ、発疹
便	便に血が混じる、黒い便が出る、下痢、便に血が混じる（暗赤色）
尿	尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

P T P シート			
形状	フィルムコーティング錠		
	上面	下面	側面
			
直径	8.0 mm		
厚さ	3.9 mm		
重さ	207 mg		
色	白色		
識別 コード	△ 375		

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	アスピリン／ボノプラザンフマル酸塩（ボノプラザン）
添加剤	トウモロコシデンプン、結晶セルロース、カルメロース、ポリソルベート80、モノステアリン酸グリセリン、無水クエン酸、D-マンニトール、ヒドロキシプロピルセルロース、タルク、ヒプロメロース、酸化チタン、カルナウバロウ、メタクリル酸コポリマーLD、アクリル酸エチル・メタクリル酸メチルコポリマー分散液、クエン酸トリエチル、フマル酸

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：武田薬品工業株式会社（<https://www.takeda.com/jp/>）

くすり相談室

フリーダイヤル 0120-566-587

受付時間 9：00～17：30

（土日祝日・弊社休業日を除く）

提

携：大塚製薬株式会社（<https://www.otsuka.co.jp>）

医薬情報センター

電話番号：0120-922-833

受付時間：月～金 9：00～17：00

（土、日、祝日、休業日を除く）